

2022年5月に設立した、データサイエンスを軸とした産学官協業と、データサイエンス活用のための大学教育の充実を推進するクラスターです。

## メンバー



橋本康弘 (リーダー)  
上級准教授  
全体統括、研究全般



大藤健太 (サブリーダー)  
上級准教授  
研究全般



島圭佑  
准教授  
産学窓口、研究全般

## 体制・専門領域

会津大学産学イノベーションセンター(UBIC)と連携し、プロジェクトの実現可能性の検討も含め、産学官協業の取り組みの窓口として活動しています。統計モデルや確率過程、ネットワークモデルなどの数理モデルや、自然言語処理、機械学習、情報可視化など、データサイエンスを構成する幅広い手法を用いて、ソーシャルメディアや位置情報データ、消費者行動データなどの分析に取り組んでいます。実世界サービスが抱える明示的・非明示的な課題に対して、協業パートナーと大学がWin-Winの関係を得られるゴールと体制を模索しながら、大学知を社会に還元していくことが大きな挑戦です。

## 過去の取り組みの事例

- ・ 会津若松市の食育・健康促進のためのデータ分析と可視化 (Fig. 1)
- ・ コロナ禍前後の会津若松市内の人流変化の分析と可視化 (Fig. 2)
- ・ 会津若松市内における電柱へのカラスの営巣リスクの評価 (Fig. 3)
- ・ カーシェアリングサービスの利用データ分析と会津若松市内の運転動作分析 (Fig. 4)
- ・ 食品量販店におけるPOSデータを用いた消費者の来店パターン分析
- ・ テレビ視聴データ分析と大規模言語モデルを用いたテレビ視聴エージェントのモデリング

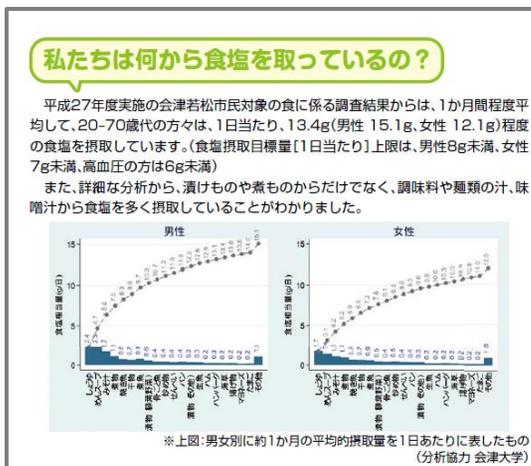


Fig. 1: 会津若松市の健康促進広報への協力

Fig. 2: 市内の人流増(赤)と人流減(青)の可視化 Fig. 3: 市内電柱のカラスの営巣リスクの可視化

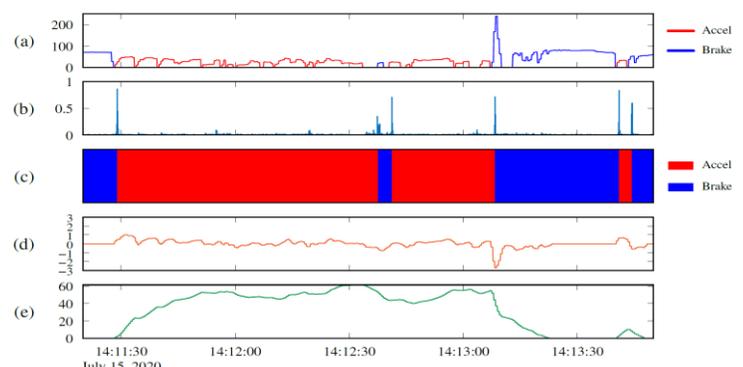


Fig. 4: 会津若松市内におけるシェアカーの利用軌跡の可視化(左)と道路環境ごとの運転操作(アクセル+ブレーキ)の分析